

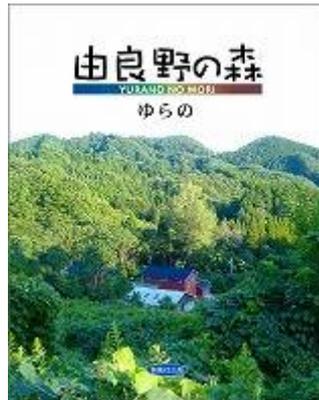
ゆらの通信

Vol.9

平成21年3月

春の彼岸を過ぎました。由良野の森にもようやく遅い春がやってきたようです。朝夕の冷えこみは続いています。昼の陽気は梅の花を咲かせ、森の小径沿いは桃源郷のようです。

みなさまお元気でお過ごしでしょうか？ 去年の秋よりご無沙汰しておりました、「ゆらの通信」Vol.9をお届けいたします。



由良野の森の本ができました。

今年、由良野の森は、また一段と変化する年になると思います。年々少しずつ進化していますので、これまでの経過を振り返り、又、今後の糧にするための本を出版したいと以前より思っていました。最初、執筆者の皆さんにお願いした原稿締め切りは2007年の暮れだったのですが、結局でき上がってみますと、出版が2008年12月25日ということ、思いが実現するまでほぼ一年以上かかったこととなります。しかし、出来栄は好評です。字の大きさが良い、写真が良い、挿絵が良い・・・とお褒めの言葉をいただきました。なにより、原稿をお願いした皆さんが快く引き受けてくださった事が、成功の第一歩だったと思います。そして、玉木先生の序文を拝見して、きっと良い本になると思えました。書かれた方のそれぞれの個性が出ています。どうぞ手にとって、眺めて、そして読んでいただければ幸いです。

ゆらの代表 清水秀明

2009年春 雪が解け、畑の開墾が進んでいます。

去年広げた野稲の畑を、由良野川に向かって倍に広げました。

ニワトリ小屋の上も今、古い桑畑を開いているところです。初代ミニコンボは寿命の為役割を終えました。この春からは、会員の1人が寄付して下さった、新しいミニコンボが活躍しています。



何年も放置された畑は、葛の根やササがびっしり生えています。重機の力をかりて大きな根や岩を起した後は、土地を畑に変えるため、全部人の手でその根と岩を取り除きます。

その作業中に大発見がありました。2009年3月21日



久万高原町教育委員会編纂の「久万高原町の遺跡・史跡」にも記載されている「由良野第一・第二遺跡」の一部でしょうか。日本考古学学会会員で、愛媛考古学研究所の長井さんによると、1万2000年位前の草創期縄文時代の有舌尖頭器と古墳時代の土師器だろうと推定されました。すっかり発掘気分になり、開墾作業も楽しさ倍増です。

遺跡が出たのは、去年秋、野稲をつくった畑の隣地。あの湯水の夏を、水やりなしで実った陸稲です。



刈り取り



刈り取り



稲木掛け

子ども達や会員有志の方々のお手伝いを頂いて、刈り取り、稲木干し、脱穀の作業を里の方に教わりながら終わりました。



脱穀



もみ摺り



み



とおみ

里の80代の方によれば、昭和40年代まではこのように機械の無い農作業だったそうです。

12月6日 由良野で収穫したもち米(陸稲)で、餅つきをしました。

好例の会員親睦餅つき。今回はあいにくの寒波で吹雪の中でしたが、大勢の方に参加いただきました。



完全な自然栽培の陸稲は、虫食いも沢山あり、粒も小さいものでしたが、薄茶色の玄米で、おいしいお餅がつけました。ほんのり甘いゆらの玄米餅。今年は倍以上の作付けを予定しています。お手伝いくださる方、一度味を試したい方、畑作業は天気を見て随時進行地中です。ぜひ森へお越しください。

2008年秋 共生林での活働

由良野の森共生林では、秋の渡り鳥調査がありました。会員の中でも森や野鳥に関心の高い方が通われて、森に集まる鳥達を観察できました。



コノハズク



アカマシコ

「自然から学ぶ」ことは根気のある地道な作業が伴います。
決して派手ではありませんが、日常茶飯な出来事の中に発見があるようです。

森・自然・生きものに親しむ活動 「こども森林博士号講座」

2008年10月5日 第26回こども森林博士号講座

雨天の為、ゲストハウスで大きなスクリーンを使って由良野の森の動植物を紹介。今までは雨天中止していた講座ですが、今回から雨天時には、普段出来ない室内での講義をはじめました。タイミングが良くないと見る事の出来ない動植物の姿を知ることができ、森への関心は深まります。



2009年3月1日 第27回こども森林博士号講座

今回はしいたけの原木並べ。去年の春にコマ菌を入れたものを杉の林の中に並べました。森林博士たちは、重いコナラの原木をどんどん運んで立て掛けます。作業が終わると、参加していただいたゆらの会員でこの標本展示館館長の玉木芳郎氏に、「きのこ」についてお話していただきました。動物でも植物でもないという「きのこ」。その存在に参加者全員、認識を新たにしました。最後はみんなでシイタケ狩りをしました。夕飯はおいしいシイタケ料理だったはずです。



先達に学ぶ 暮らし、生き方

由良野の森では、自然だけでなく、そこで生きる人間の暮らしや、生き方、考え方を学ぶ機会を広げようと、企画をつづけています。

森のある久万高原二名地区の里人に学ぶ わらじ作り もその一つでした。2008年11月30日



友井静雄さん、昭和一桁世代。わら草履で学校へ通った最後の世代です。

はじまりは、雪の多いこの地方でわらの長靴を作れる最後の方・・・ということをお願いしたのですが、学ぶ側の我々は、ほとんど縄もなえないということが分かり、基本のわらの扱い方から学ぶこととなりました。午前9時から夕刻まで。何とか一人一足のわら草履が完成。米を作り、稲わらを利用して生活に生かした先人の知恵。わらは又、家畜の冬場のエサとして貴重でした。そして家畜（牛、馬、ヤギ）は、農作業の一端を担い堆肥を生成する、人と自然の暮らしの中で相互依存の関係にありました。

ゆらの人間学講座も又、生き方を考える機会として開き、第5回はゆらのの清水代表が担当しました。

2008年11月9日 身体のエネギー学その2



「DNA に魂はあるか」と「生命場の科学」の対比から始まり、伝統医学の概略を話して頂きました。『我々は宇宙の自然現象の中にあり、その影響を受けていますが、思考概念も大いにそこにかかわってきます。』と云うことで、次回身体のエネギー学その3は、小学生にも分かる内容になるとのこと。今から楽しみです。

心と体の関係を考える人達に ヨーガのワークショップと合宿 が行われました。

2008年12月13日・14日



ゆらの会員で、松山ヨーガサークルを主宰する普光江彰子さんが森に来られ、会員の方々をはじめサークルの方、地元の方々も交えて約1時間のヨーガワーク。心と体に何が必要か考え体験する機会でした。この4月11・12日にも予定されています。関心がある方はぜひご参加ください。

1年の半分以上をアラスカで過ごし、オーロラや自然の写真を撮っておられる松山市出身の写真家松本紀生さんの アラスカフォトライブ がありました。

2008年10月12日



アラスカの様子を話す松本さん

アラスカのお土産に大喜びの子ども達

第1部はこども向けに、第2部は大人の部として2回のトーク&フォトライブ。大自然の写真と松本さんの楽しく感動的なお話に、ゲストハウスに集まったみんなで酔いしれた2時間でした。夏のアラスカでは、無人島でキャンプをしながらクジラや森の動物・木々を追い、冬はマイナス40度にもなるマッキンリーのふもとでオーロラを待つ松本さん。次回のお話が楽しみです。

森で聴く大人のためのクラシック 2008年12月6日

アンサンブルさくらさんによるコンサート「天の調べ」がありました。外は冷たく凍るような夜。

曲名は、わが故郷より(スメタナ作曲)・オペラ「コシファントゥッテ」より「岩のように動かず」(モーツァルト作曲)・月の光(ドビュッシー作曲)など。クラシックの調べにみんなうっとりとした時を過ごしました。ご縁があって由良野でコンサートをしていただいて、今回が5回目になりました。



染織工房天月の改装と ヤギ小屋作りが進んでいます。



ようやく外壁が全て杉板に張り替えられました。これから内装が進めば多くの手仕事を伝え・学び・集う場が充実する予定です。6月下旬には、また養蚕も始まります。



今月4月の下旬にはやってくる予定のヤギの小屋。来るのが約1ヶ月早くなり大急ぎでつくっています。先日基礎部分が出来たところ。5月の連休には森で草を食む(草取り専任の)子ヤギが見られそうです。

この秋・冬の由良野の森の風景です。



紅葉の頃



お正月の頃

由良野の森の本の表紙は夏なので、比べてみると四季の自然の移ろいが1年を感じさせてくれます。

2004年に植林したクヌギの林より



2008年秋



2009年春

ゆらのの会がまだ発足していなかった頃に植林した林は、この春6年目を迎えます。1年1年、確実に「地球時間」で成長を続けています。野鳥が行き交う林に居ると、勇気と希望が静かに強く湧いてきます。みなさん、どうぞ由良野の森に足をお運びください。

事務局より

由良野の森は、常に多くの方とのご縁で、様々なことが展開しています。充実してきている共生林では、今後更にいろいろな体験が出来るようにと考えています。また、里山の作業・共生林の手入れなどは随時受け付けています。ご連絡ください。なお、ゆらの総会は6月7日(日)午後を予定しています。

午前中はこども森林博士号講座・総会後は共生林の解説を兼ねたトレッキングを予定しています。4月19日の映画「十二人の怒れる男」にもぜひご参加ください。